

榎木

第参号

平成23年9月10日発行
青壮年部・女性部・広報部
題字：大内 翠峰

二年目に当たって（あの震災から）

青壮年部・女性部 会長 石垣英孝

本会発足、二年目を迎えました事、
会員・総代・檀信徒の皆様にご心より
感謝とお礼を申し上げます。

総会に向けて役員会を翌日に控
えた3月11日、誰も経験したこと
のない大地震・そして巨大津波、その
日から東北地方の生活が大きく変
わりました。震災後、初めて南三陸
町を訪ねた日（4月2日）自分が何
処にいるのか分からない。昨年の忘
年会の時、買物をしたスーパーの
建物だけが残っていたので、ここを
右に行けば気仙沼方面。ようやく歌
津に到着、旧友が言うには、あの日
以来、時間が止まった感じであると
言う。あまりにもひどい惨状に言葉
を失いました。

この震災後多くの人との出会いが
ありました。その中から

①住職と何度か訪ね
た岩井崎の地福寺片
山秀光住職のことば
から「めげない 逃
げない くじけない
涙の数だけ心には情

（なさけ）の花が咲くという」

②宮崎県から単独一人、2トン車に
風呂を二つ積んで南三陸町歌津ま
で来て設置していった人、それを見
てボイラーを寄付した人。

③自分も被害にあったのだが、全国
の方々に直接お礼を伝えなくては
と一人自転車、日本一周に出発し
た人。

④青年団結成六十周年記念事業に
て、団員三十数名、バスで気仙沼を
訪れ瓦礫片付けと郷土芸能を披露
して行った大阪府岸和田の青年：
などなど。

改めて日本人の素晴らしさを教え
られました。縁があつて生きている。
自分の生命を、人の生命を大切に
して生きていくことが如何に大事
なのか学んだ気がします。

青壮年部・女性部、今年も昨年同様
の活動をしてまいります。会員各位
のご協力と檀信徒皆様のご支援を
よろしくお願いいたします。



題字題字題字題字

清浄山 禪興寺 住職 梅澤徹玄

皆様お世話様です。お陰様をもちまして、念願の当山青壮年部・女性部の活動も、去る6月17日の総会を経て、2年目を迎えることとなりました。これも総代会、青壮年部・女性部会長始め諸役員の皆様、会員各位、檀信徒皆様の絶大なるご尽力とご協力の賜物と心より深く感謝申し上げます。この間未曾有の東日本大震災に見舞われ、多くの尊い人命が奪われ、筆舌に尽くし難い様々な苦しみ、悲しみ、経験をお互いに経験して参りました。この悲惨な現実を、どう受け止め、何を心の拠り所として生きてゆけばよいのか、老いも若きも心の奥底に自問自答してこられたことと存じます。この間、当山青壮年部・女性部の方々にもご協力頂き、沿岸部の被災地に繰り返し足を運び、微力ながらも復興支援のお手伝いをさせて頂きました。非常時の近隣、親戚縁者同士の助け合いや現地の被災者の方々の必死に立ち直ろうとする懸命な尊いお姿にこそ、私達仏教徒は何ものにも冒されることのない、素晴らしい仏性

(生まれながらにさすけられているほとけの心とからだの生きる力)の面目躍如たる表れを感じ取り、他人の痛み・苦しみを我が物として、共に助け合って生きて参りましょう。合掌



寄稿

抹茶と法話の会に参加して

早坂 孝子

女性部会の行事であります、「抹茶と法話の会」が1月22日(土)、午前10時30分より、禪興寺本堂において開催されました。

背筋を伸ばし、経本を持ちながら般若心経を唱えました。全ての言葉に深い意味があるのだと思いが、読み終えると、不思議と心穏やかになる気がします。

住職さんの法話の中で、仏壇の祭り方、お線香の立て方、お茶や水の位置等、それぞれに意味を持つこととして、ご先祖に対して感謝の心をささげることが大切だとお話し、いただきました。

その後、八橋等の京菓子、程よい甘さの生菓子、お抹茶を頂き、和やかな雰囲気の中、いい時間を過ごす事が出来ました。お弁当もとても美味しく、お腹も心も満たされ、本当に「おかげさま」と実感した一日でした。

題字

「写経会」を終えて

研修部 部長 大内静雄

本年度最初の行事として、総会が開催されて間もない去る6月25日多くの方々のご協力の下無事開催することが出来まして誠にありがとうございました。

思い起こせば第一回目は今年の2月12日朝まで大雪が降った日各部行事の掉尾を飾る開催でありました。

写経はほとんどの方が初めてであり、徹玄和尚様より、中央に写仏をほどこされた延命十句観音經という短い経分の写経用紙と、小筆、文鎮、下敷き等の道具も40名分ほど用意していただき、どうにか研修部の行事の一環としてスタートすることが出来たのでありました。

港を出た船が風に遭う。その船の行く方向に向かって吹く風は「順風」であり、逆方向に吹く風は「逆風」である。また、そのどちらでもない

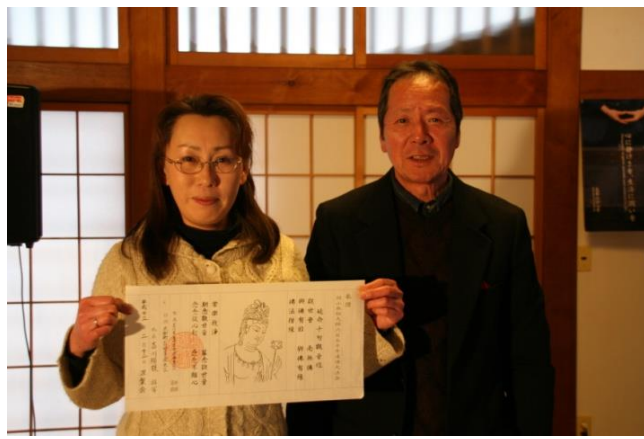
横風の場合は、船の航海に、さほどの利益も不利益もたらさない。風には本来、それ自体に良いも悪いもない。そしてその向きは予測しがたいものなのでしょう。

いまは社会が情報化して、パソコンやケータイ等の時代が到来して、文字を書くということがだんだん少なくなってきたように思われる。まして墨をすって筆で書くとなるとなおの事です。

そこで、たまには墨をすり、無心に経分を写すという、ゆったりとした時間を過ごすのも良いのではないのでしょうか。無心といえれば私などは雑念が入りなかなか無心にならないものです。

写経会では短い坐禅もとり入れ、徹玄和尚様より坐禅とはどのようなものなのか、座り方、手や足の組み方、呼吸の仕方等々ていねいに教えて頂いております。

また会員だけではなく多くの方々に広めて行きたいという和尚様のご意向でもあり、今後研修部として種々企画してまいりますので更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



「涅槃会・写経会に参加して」

麓下 吉川絹枝

平成23年2月12日(土)午後2時から禪興寺本堂において「涅槃会・写経会」が開催されました。涅槃会とはお釈迦さまが亡くなられた日のことを言うそうです。お釈迦さまが亡くなられた時は多くの弟子たちや信者の人々、又数限りない動物たちもお釈迦様の周りに集まり悲しみにくれたそうです。その情景を描いた「涅槃図」という掛け軸を拝見しました。

近年、写経が静かなブームとなっているようです。特に若い女性の方がハマっているそうです。私も興味はあるけどなんだか難しそうで普段から筆なんて持たないので書けるかどうか心配でしたが、いざ筆を持つてみると案外書けるもので時間も忘れ集中して書き上げました。下手な字だけと書き上げた時の達成感は何とも言えませんでしたが、何となく心が満たされないような、安らげないよう、そんな思いをしている時、写経をしてみると心が落ち着くと思います。

多くの会員の皆様にも是非一度体験してほしいと思います。

座禅会・写経会に参加して

金取北 浅井 茂

梅雨の季節の6月25日、幸いにも梅雨の晴れ間となり、昨日までの雨で清浄山禪興寺を包む木々の緑は色鮮やかとなり、閑静な寺回りの空気もなお一層すがすがしく、古刹ここにありと深く心にしみる思いでした。

今日は禪興寺青壮年部・女性部の「座禅会・写経会」で、私を含む十五人をやさしく包み込んでくれているようで、何とありがたいことであります。

始めに、徹玄和尚の指導により坐禅を行いました。

臨済宗の教えは座禅より悟りを得るものと聞いておりましたが、改めて座禅を組み増すと足はしびれ腰は曲がってきて「くるしいなあ」と感じ思い、また耳元には小鳥のさえずりが聞こえ、とても雑念払えず苦行の思いとなりました。

座禅が終わりましてからは、いよいよ写経です。

写本の字をなぞって書くとはいえ、使い慣れない小筆をもつての写経写仏はなかなか難しいものでしたが、二枚目を書く頃にはそれなり

の筆使いともなり、静寂の中で一心不乱に写経が出来ました。実に心穏やかなひと時を過ごせたのです。本当にありがとうございました。次回も参加します。会員の皆さんもぜひ都合をつけて参加してみてください。次回お会いしましょう。



これからの行事（予定）

◎墓地清掃

9月下旬

◎女性部会（数珠作り&食事会）

時期 紅葉がきれいな季節
場所 松島町 円通院

◎成道会・大般若祈祷

12月3日（土）午後
会場 禪興寺本堂

◎忘年会

12月3日（土）
成道会大般若祈祷終了後
会場 吉岡を予定

編集後記

第三号の特集として、3月11日の東日本大震災を取り上げ、この特集のためにアンケートを実施しました。突然のお願いに快く協力を頂き、ありがとうございました。

人間は、突然の大災害に遭遇したとき、どんなことを考え？どんな行動をするのか？

普段は当たり前前に思えることがどんなに大切なのか再認識させられる経験でした。

被災した人の心の傷が癒されるのは、長い時間が必要だと思いますが、人間の力を信じて早期の復興を心から祈りつつ、自分に出来ることを続けていきたいと思っています。

広報部

部長	鵜橋初雄
副部長	佐藤 彰
部 員	小川弘吉
	浅井明美
	高橋一悦
	浅野澄江
	相澤敏晴

震災との歩み ～ 5人が語る ～

2011年3月11日午後2時46分に発生した東日本大震災。

青壮年部・女性部のメンバーが、あの時の思い出と、何を考え行動したのかを綴るコーナー

- Q1 地震発生時は何をしていてどのような事がありましたか？
- Q2 地震発生後すぐにしたことは？（今思えば失敗したなあとすることは？）
- Q3 震災時にありがたかった思い出は？
- Q4 今後の地震や災害に備えて準備しておきたいこと（物）は何ですか？
- Q5 震災を体験して思ったことや行っていることなどを自由に記入ください。

反町中 佐々木 久夫

- A1 クレーン付き4トントラックの運転をしている時に大きく横揺れがして、重い荷物のせいかなと思いましたが、電信柱が大きく揺れて倒れそうになったので車を止めて車外に出て広い畑の中央に逃げました。非常に長い時間を感じられました。
- A2 消防団に入っているので、役場に向かうためトラックの荷降ろしをし、災害対策本部へ行った。震災後すぐに従業員を集合させ会社独自の対策本部を設立し行動をとるべきであった。
- A3 しばらくぶりで兄弟と子供と一緒に炊き出しをして二日、三日食事を共にしたことです。早寝、早起きと生活が家族全員一体となったこと、お互い思いやりの生活ができたこと。
- A4 生活用品と食料、燃料、電気（動力発電機）など常に備蓄が必要。また、地区内が集合し話し合いお互いに情報を知り伝えることが必要。
- A5 いつでも、どこでも身の安全の個所を見極めること。連絡網などで情報の必要性が重要である。

反町下 石垣 いよ子

- A1 私は台所で煮物を作っている最中急に大きな揺れに襲われてビックリしていったんガス代から離れて立ってられず柱にしがみつきました。あっガスの火を止めなくては！！と思い少し揺れが収まったとき急いでガスを消しました。
- A2 外に出て家族の安否を確かめました。幸い一番心配していたおばあさんはビニールハウスに入っていたので無事で安心しました。
- A3 県外にいる申請や知人から安否確認の連絡が入り、その後、食料などが送られてきて大変ありがたいと思いました。又、水道だけは、止まらず大変助かりました。
- A4 水、食料、燃料、乾電池、ラジオなど
- A5 震災後、津波の被害にあった地域にガレキの片付け作業を手伝ってきました。家々や大きな建物など全てがごとごとく破壊され津波の恐ろしさを目の当たりにしてきました。
震災を通じて家族の絆、人とのつながりが改めて大切なことだと思いました。

八志田 千葉一美

- A 1 当日は消防本部体長として勤務しておりました。地震発生時は消防車両取扱訓練中で各隊員に車両を車庫外に移動の指示、全員庁舎外から避難、人員確認、出場体制準備を指示しました。
- A 2 災害対策本部にて今後の体制、各種災害現場等への上場人員調整（例えば 県や市への災害派遣隊・郡内の災害出場調整をした）
- A 3 当日勤務のため数日間帰宅できず、家族等に連絡が取れないのが一番心配でしたが、一時帰宅した時に家族全員が無事であったことが一番ありがたかった。（我々は地域住民を守る義務があるので、家には帰宅できないのです。仕事優先。）
- A 4 再度、自宅の耐震診断を受けること。老人の安全確保についての検討。家族各自の任務の確認。地域の自主防災組織の設置。自分たちの地域は自分達で守る体制
- A 5 今回の震災で沿岸部から離れており、害が最小限だったために、地震に対しての恐怖感等について感情が無いように見えます。ライフラインも早く復旧していますので、阪神・淡路大震災で住民が口にしていた“日頃の付き合いの良し悪しが生命の助かる助からないの分かれ目”最後は人です。ちょっとした勇気、声掛けです。
- 3年前にも岩手・宮城内陸地震が発生しました。その時の教訓で、今回の地震では栗原の地域リーダーが率先して活動し、自主防災組織が100%自助・共助・公助が市民に浸透したということでした。今後は、今までの防災計画では対応できないため、計画の見直し、地域住民との研修会を通して自主防災組織の確立、命の大切さ、二度とこのような災害はほしくないのですが、いつ来ても皆さんが対応できる地域にしてもらいたい。

反町下 堀籠健人

- A 1 青葉区で仕事先のお宅にいた。なにもできず、あのひどく長い揺れの間柱につかまっているしかなかった。
- A 2 そのお宅の火の元を確認した。その後、栗原の職場に向かった。
- A 3 仕事で沿岸部の避難所に行くたびに、全国から本当に沢山の支援が寄せられ心から有難く感じた。
- A 4 またこのような自然現象が繰り返されるだろうという心の用意をすることが大切だと思う。
- A 5 あれから時間は経ったが被災地の方々の生活は止まったままなので、少しでも前進できるよう祈念いたします。

八志田 今野静雄

- A 1 仙台支店にて会議中に震災に遭い、立体駐車場に入れた車が閉じたまま他に交通機関もなく4時間かけて吉岡に戻る。
- A 2 地震発生中に事務所に電話連絡し無事の確認をしましたが、事務所の中は書類が散乱状態の中で電話を受けさせていたことが反省
- A 3 車の燃料が無く動けない時に知人より突然連絡があり10リットルの燃料を頂いた時は感動でした。
- A 4 停電対策及び連絡の手段の検討 仕事柄パソコンが使えない！連絡が取れない！今後は発電機及びバッテリー等の設備を設置
- A 5 大震災に対して自衛隊並びに警察の対応が早く、また、被災地に全国からいろいろな支援等の集結。作業にあたっていただいたことが印象に残っています。現在も多方面で日夜作業、及び警備頂いている方々に感謝申し上げます。